

令和4年秋期 釜利谷地区推進連絡会要旨

1 日時

令和4年10月3日(月) 18:30~20:15

2 場所

釜利谷地区センター 2階体育室

3 参加者

(地域側) 自治会等地域団体関係	22名
(支援チーム、その他行政側)	
区役所	13名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	13名
学校関係(釜利谷小、釜利谷東小、高舟台小、釜利谷中学校)	5名
消防出張所	1名

4 意見交換要旨

地域の方々と支援チームが6グループに分かれ、2団体から活動事例報告の後、下記の3つの視点から意見交換し、2グループが発表した。

○活動事例報告：多世代交流G／夏山遊ぶ会、ちょいボラG／ホッと！阿王ヶ台

- (1) 感想、地域の実態
- (2) 困っていること
- (3) 今後、取り組みたいこと

(1) 感想、地域の実態

<感想>

- ・子どもの参加が減る中、高齢の方でもズームで色々なことができ、実践していることが素晴らしい。人と会って話をする大切さ・必要性を感じた。
- ・「多世代交流」と「ちょいボラ」は、お互いつながる部分がある。
- ・短時間のちょっとしたことでも喜ばれる、自分の健康維持にもつながる。
- ・活動の立ち上げは比較的簡単だが継続が難しい(認知症に関する活動も同様)。
- ・多世代の集まりを知らないだけの可能性もある(特に子育て世代)。
- ・定年延長→70歳からボランティアを始めるだろうか。支え合いはありがたい。

<地域の実態>

- ・地域の掃除で交流。川の掃除に約30名、個人は犬の散歩ついでにごみ拾い。スポーツ広場ボランティア団体、公園愛護会も清掃に参加。
- ・地域の塾：地域の人が子供に工作などを教える場(ミシン、手縫い雑巾等)
- ・みかん狩り、ツアー、夏祭り。ラジオ体操/年齢問わず、70人規模で実施。
- ・小学校卒業後、地域活動を継続できない→次への種を蒔いている、消防団。
- ・ケアプラザ：認知症サポーター講座で子供たちの学び、気づきの事例も有り。
- ・新しい町内(30数年)は関係性が希薄。核家族多く、多世代交流は大事。

- ・町内会でお助け隊を立ち上げ、広く活動、年 100 件。活動範囲は地区外も含む。活動期間長い。活動を機に心を開き地域に心を開いた方も。蛍光灯や電球交換。
- ・40 代ボラ参加者は「人」のつながり、地域活動に興味がある人。
- ・地域の問題は町内だけで解決するのは難しい。ボラを頼む側も勇気が要る。
- ・家に人を入れたくない場合もあり、丁寧に対応している。(ちょいボラ)
- ・ボラで頼まれてお断りした活動は？→有。ボランティアの話し合いで決定。
- ・民生・ボラ、地域支援活動しつつ、色々な立場で動いている。
- ・民生委員と消防署で単身高齢者宅を訪問：火災報知器作動確認、消火訓練等
- ・共働きは仕事や介護理由に不参加。
- ・子育てに限界を感じている人多い／地域の力を借りにくい。

(2) 困っていること

- ・活動の継続が難しい。情報の取り方が分からない。
- ・改選で民生委員を探す中で、高齢者が多く日常生活で困っている方は多いと感じた。日常の挨拶はするが頼みづらいことをどう把握するか。
- ・自ら声を上げにくい方、訪問に拒否感がある方、コミュニケーションが苦手な方のサポートが課題。
- ・お助け隊メンバーも高齢化／後継者が育たない(平均年齢 80 歳超)。
- ・共働き・働き世代：地域活動へ参加できない。男性が地域活動に出てこない。
- ・コロナ下で拠点防災訓練ができない。災害時避難所が今一つ浸透していない。
- ・要援護者名簿、毎年綴るだけ。実際何をどうしたら、どこまでやっていいのか。
- ・学校：コロナ制約で交流事業や外出活動は停滞。
- ・毎年自治会役員が交代、実情よく分からない。コロナで人数絞り、会合困難。
- ・自治会と横のつながりが無い。1～2年で役員交代、書面引継。

(3) 今後、取り組みたいこと

- ・地域に 1 つ、発表にあったようなグループを作りたい。
- ・「近助」それとなく手伝うことから始めたい。
- ・顔の見える関係づくり。子育て世代が参加しやすい時間や曜日の設定。
- ・親子が参加できるイベント企画、団体同士の交流(子ども会、シニアクラブ等)。
- ・町内会：ホームページ立ち上げ(若い層に見てもらうため)。
- ・防災の取組：電源の扱い方、段ボール資材の組み立て等。防災等の人材発掘。
- ・小学校：園芸ボランティアへの地域の方々の参加。
- ・中学校：活動に参加しやすい仕掛け／小学生の頃からの参加工夫。
- ・子どもが大人と地域で交流し、その活動を目にすることで将来につなげたい。
- ・地域課題を共有する話し合い。それが地域のつながりになるといい。
- ・活動者の高齢化に伴う、活動への気力維持の工夫。

★3年ぶりのグループワーク開催。今回の活動事例報告や意見交換をきっかけに、互いの能力を活かして、皆での助け合いを地区全体で進められたら良いと思う。